

秘書検定／サービス接遇検定／ビジネス文書検定／ビジネス実務マナー検定



就職指導ニュース

ビジネスの現場で生き抜く力を育む

vol. **59**

May 2026

2026年5月20日

[発行]公益財団法人実務技能検定協会
〒169-0075 東京都新宿区高田馬場1丁目4番15号
TEL03-3200-6675

秘書検定
ビジネス文書検定
ビジネス実務マナー検定
サービス接遇検定

<https://jitsumu-ginou-kentei.jp/>

●人材育成ニューウェーブ 現場の事例から[59]……2

ネットヨタ東埼玉株式会社

充実した教育プログラムで、
個人が成長しキャリアを歩む

●ビジネス実務教育最新事情 **大学編** [59]……6

東京家政大学

社会で役立つ資格講座で、
学生の「自主自律」を育むキャリア支援

●ビジネス実務教育最新事情 **高校編** [59]……10

東京都立橘高等学校

ものづくり・ビジネス・ITを学び、
視野を広げ、将来を形づくる力を付ける

●**専門学校** ルネサンス プロ・スペシャリストを育てる[59]……13

福井美容ビューティー保育専門学校

福井医療・スポーツ専門学校

お客さま・患者さまに接するプロとして
確かなマナーと接遇スキルを育成する



●常見陽平の就活の波を越えてゆけ！[17]……9

AI時代の就職支援

●ビジネス系検定 問題解説……16

ビジネス系検定 問題解説／検定結果と案内

●実務技能検定協会からのお知らせ……20

団体ページにご登録ください／ビジネス系検定CBT

●教材案内……21

言葉遣いに対する苦手意識の克服をサポート！
「声に出して覚えよう！言葉遣いと敬語ワークブック」

●令和7年度

検定試験成績優秀者・表彰団体発表……22

●受賞おめでとうございます……24

●ビジネス実務教育情報……26

ビジネス実務教育担当初任者筆記指導研究会／
秘書サービス接遇教育学会／
日本ビジネス実務学会／日本国際秘書学会／
秘書・サービス接遇検定準1級面接実技指導研究会／
「ヒューマンスキル教育研究」第34号刊行

●ティータイム……28



地域連携推進センターが入る、
東京家政大学板橋キャンパス8号館



社会で役立つ資格講座で、 学生の「自主自律」を育むキャリア支援

東京家政大学

(東京都板橋区)

東京家政大学地域連携推進センターでは、学生のキャリア支援の一環として、さまざまな資格講座を開講している。秘書検定2級対策講座は、社会人スキルを学ぶ貴重な場として10年以上前から実施されている。新年度からは新たにサービスマナー接遇検定の対策講座も実施。各検定への取り組みの狙いや、実際に講座で学ぶ学生の声を伺った。

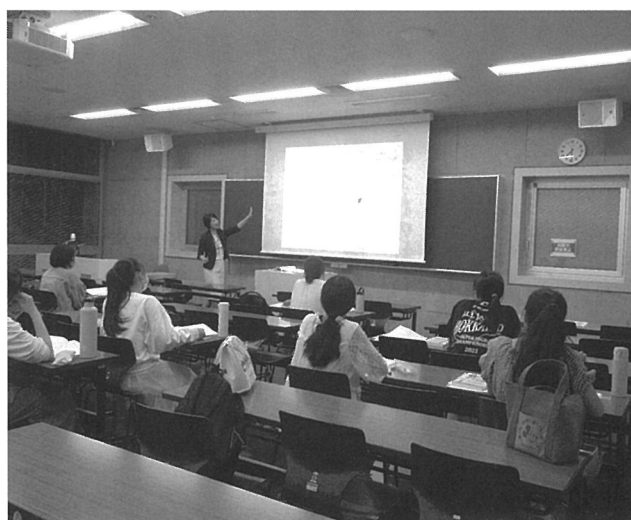
チャレンジ精神を育みながら、 ビジネスマナーを体系的に学ぶ

東京家政大学は、東京都板橋区にメインキャンパスを構える総合女子大学だ。「自主自律」を建学の精神とし、140年以上にわたり「新しい時代に即応した学問や技法に秀でた女性」を育成・輩出してきた。2026年度には学際的な学びを促進すべく、新たに二学環を創設。学生は最先端の環境で日々研鑽に励んでいる。同学は各学部学科での専門的な学びに加え、キャリア支援体制も充実させている。その一環として開講しているのがヒューマンライフ支援機構・地域連携推進センターによる学生および近隣地域の住民に向けた資格検定講座だ。学

び直しや生涯学習を目的とした「公開講座」、資格挑戦を支援する「女性のための資格講座」などジャンルは幅広く、秘書検定対策講座は開講して10年以上がたつ。

秘書検定対策講座開講の理由を、同センターの宮地孝宜副所長（教育福祉学科准教授）は次のように話す。

「秘書検定は社会人基礎力やビジネスマナーを体系的に習得できる貴重な機会。大学は専門的な知識を学ぶ場所ですが、社会人スキルを学ぶ機会も多くありません。そのため学生のキャリア支援の一環として、社会人としての立ち居振る舞いや敬語、来客対応やメールでのやりとりまで学べる秘書検定対策講座を設けることになりました。これらのスキルは就職活動にも直結しますし、結果が資格という目に見える形で表れることで、学生が自信を持って就活に臨



秘書検定講座。遅い時間でも学生たちは集中して取り組む

東京家政大学ヒューマンライフ支援機構・地域連携推進センターの宮地孝宜副所長



同機構の川上靖子専門主査

めるようになり。また秘書技能を学ぶことで、学生自身の対人関係や自己管理にもプラスになると考えています」(宮地副所長)。

講座の受講は希望制、時間も通常授業終了後の19時以降となるため、集まるのは資格挑戦に熱心な学生たちだ。大学が掲げる「自主自律」を育む建学の精神にもつながっていると宮地副所長は分析する。

「資格講座は学生が自らの意思で自発的に取り組むもの。チャレンジ精神を育みながら、社会人の基礎を学ぶ場として、学生には大いに活用してもらいたいですし、われわれも情報提供などでサポートしたいと考えています」。

毎年前期・後期で各20人ほどが秘書検定2級・準1級に挑戦してきたが、2026年度からは対象を2級に限定し、新たにサービス接遇検定2級・準1級への挑戦に向けた対策講座を開講。前期にサービス接遇検定、後期に秘書検定に挑戦する。新講座開講について同機構専門主査の川上靖子さんはこう語る。

「新年度には、より

基礎的なビジネスマナーとしてサービス接遇検定の内容を学び、ステップアップする形で秘書検定に挑戦する流れを構築しました。サービス接遇検定では秘書検定の基礎になる内容が学べますし、準1級では面接での立ち居振る舞いも身に付けられます。1年間で二つの資格を取れるのも大きなポイントとして、学生には伝えています」(川上さん)。

対面を重視した資格講座、社会人と学ぶことでの相乗効果も

同学では1年次からキャリアガイダンスを行い、2年次からはキャリアデザインを必修科目にしており、学生がキャリアを意識しやすい環境が整っている。講座の展開は具体的なキャリア形成の手助けだ。

「今は自分の専門とは違う分野の資格にも積極的に挑戦する学生が増えています。以前と比べ就職活動の時期が早くなっている影響もあるでしょう。逆に、将来を決めかねている学生には、資格の勉強をすることがキャリアを考えるきっかけになるのではないのでしょうか。資格挑戦はなるべく早い段階の方が有効的です。学生生活の中でバランスを取るのには学生自身ですが、学部学科での学びがおろそかになってしまっはよくありませんから」(宮地副所長)。

今年度開講される講座は秘書検定やサービ

ス接遇検定のほか、宅建や日商簿記、MOS&ITパスポートや公務員講座など、将来的に持つておいて損はないものや、持つていくことがスキルの証明になるものを中心だ。講座のガイダンスは年度始めに行っており、各資格ブラスで講師が詳細を紹介する企業説明会スタイルで、学生に情報を提供している。反響は大きく、ガイダンスへの参加人数は年々増えているという。講座で重視しているのが、できる限り対面で指導することだ。中にはオンデマンド講座もあるが、基本的には対面を推奨している。

「各資格の合格率を見ると、対面指導の方が全国平均の合格率を大きく上回ることがほとんどです。やはりその場ですぐに質問できることは大きいでしょう。またオンデマンドで『いつでも見られる』状況になると、かえって全くやらない学生が多くなる傾向があります。早い段階から専門的な実習が始まる本学においては、なるべく早く資格を取ることが大切です。コロナ禍後もいち早く対面を再開させましたし、今後も重要視していきたい部分です」(川上さん)。

昨年度からこれらの講座は学生と同時に地域の女性社会人に向けても開講されており、学生と社会人が同じ空間で授業を受けるのも特徴の一つだ。

「各回の講座では、社会人の方が熱心に学習に取り組んでいます。異なる年代の方々が学ぶ姿は学生にとって刺激になります。学生に目をか

児童学部児童学科のY・Yさん



児童学部児童学科のN・Mさん



人文学部心理カウンセリング学科のM・Aさん

**「自主自律」で選んだ検定挑戦で、
将来を見据えたキャリア形成を**

「一生懸命さの違いや、社会人になってから学ぶ場の相乗効果を感じています」(宮地副所長)。
「一生懸命さの違いや、社会人になってから学ぶことの大変さも伝わりますし、学生である今のうちに資格を取ろうと前向きになるよいきっかけになるかもしれませんね」(川上さん)。

広く開かれた講座の下では多くの学生たちが資格に挑戦してきた。児童学部児童学科4年生のY・Yさん、同学科2年生のN・Mさん、人文学部心理カウンセリング学科2年生のM・

Aさんは、2025年度に秘書検定講座を受講し2級に合格した。

Yさんは、秘書検定は社会で生きていくためのマナーや一般常識を知ることができるので、もともと大学生のうちに取ろうと考えていたと受講のきっかけを振り返る。

「実習と並行して勉強することになり大変でしたが、将来は保育の道に進もうと考えている私にとっては、敬語や席次、目上の人への態度など、対人関係でのマナーを学べたことは大きかったです。学生の間では経験できないこともありましたが、知識として学ぶことができ、とてもよい経験になりました。接客業のアルバイトでも店長に敬語を褒められるなど、学びが役に立っています」(Yさん)。

高校の友人が既に受験しており興味があったというNさんは、資格講座ガイダンスで秘書検定に挑戦できると知って、受講を決めた。

「社会経験がないため難しい部分もありましたが、何を優先するべきか、相手に失礼のない受け答えであるかどうかを過去問題をたくさん解いて覚えました。結果、ビジネスマナーだけでなく、秘書の立場を理解した判断力が身に付いたと感じます。他者への敬意は言動や表情、文面からでも伝わることも学び、普段の行動に対する意識が変わりました」(Nさん)。

Mさんは、大学1年生のやる気があるうちに何か資格を取りたいと考えたのが受講のきっかけ。

「この内容なら就職活動や社会に出ていく上でも役に立つと思います。敬語や接遇用語、あいさつの表現は覚えるのに苦労しましたが、しっかり学んだことで自信が付き、アルバイトでも適切で丁寧な言い回しができるようになりました。目上の方とのメールのやりとりでも、これまで以上に敬語を意識し、適切な表現を心がけています」(Mさん)。

積極的な姿勢で社会人としてのビジネスマナーを身に付けた学生たちは、それぞれが将来をきちんと見据えている。

「今後は保育現場で専門的な知識や経験を増やしていきたいです。アルバイトやボランティアなど、積極的に参加していくつもりです」(Yさん)。

「育児支援に興味があり、将来は保護者の気持ちに寄り添った支援がしたいと考えています。多様な家族のあり方を理解し、柔軟に対応するために、今後も自己研鑽に努めたいです」(Nさん)。

「卒業後は人と深く関わる仕事に就きたいと考えています。目指すのは相手の立場になって考え、信頼を築けるような人材。日々の生活やアルバイト、大学での学びを通してコミュニケーション能力を高めるとともに、検定で学んだビジネスマナーを実践の中でさらに磨いていきたいです」(Mさん)。

「自主自律」の精神は、学生たちの中で確かに育まれている。